

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.795 2020

2020年4月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本増町2番11号
TEL：03-5367-6640 FAX：03-5367-6641
URL：https://www.ymcajapan.org/
発行人／神崎 浩一 編集人／山根 一毅
印刷／あかつき印刷株式会社



子どもたちの セーフティネット



OPINION

適切な外遊びの機会を

新林智子（臨床心理士・公認心理師／スクールカウンセラー）

世界中に流行しているコロナウィルスの影響を受け、全国一斉の休校措置が取られました。この特殊な事態を、スクールカウンセラーとして学校現場の内側から経験している中で、日々、学校において安全や健康を見守ることで暮らしている子どもたちの状況が気掛かりです。

いったい子どもたちは今、どう過ごしているのでしょうか。中には、休みになって小躍りする子もいるでしょう。一方で、ゲームセンターや街に子どもたちが集まっていないかを見に行った先生は、誰もいない状況に「子どもが、言うことを聞き過ぎている」と心配になったそうです。さらに、外出しなくてもオンラインで外の世界とつながり、ゲームやネットに夢中になりすぎて学校再開時に戻ってこれないのではないか、トラブルや事件に巻き込まれないか、このような非日常が長期化することによる子どもと保護者のストレスが、今後どのような形で現れるのかを考えます。

学校教員は子どもを特別に預かる体制を取り、家庭への連絡や訪問、学童保育の応援と、変わらず動いています。一方で、不思議な現象も起きています。例えば、普段、登校しにくかった子どもが自主的に登校し、人もまばらな校舎をのびのび利用しています。そこには、感覚過敏があり大人数の集団が苦手という子もいて、先生と「本当は学校に来たかったんだね」と話しています。

「健康ならば、外に出て歩き、運動を。感染リスクの少ない屋外、野外での子どもたちの学びや遊びの保証を」と、地域の心ある方やNPOが、家に残された子どもの支援を展開するのはありがたいことです。子どもたちが安心して過ごせるよう、YMCAのような地域に根付いた組織における多様な活動が広がることは、今、子どもたちにとって大切なセーフティネットとなります。

そして、これを機会に、独立した機関として子どもに関わる施策の必要性や可否をチェックし、現場の声を国に届けるルートを増やせないかと真剣に思います。例えば、子どもの権利条約の批准国の多くは、国家レベルで「子どものオンブズパーソン機関」を設置しています。政府から独立した機関として、子どもに関わる政策が本当に必要なものかを問い、意見を表明し、国会へ改正案を提出する権限を持っています。

子どもたちのセーフティネットから、ポジティブネットへ。子どもとその家族に伴走を続けるYMCAと、新たな視点で行動していけたらと願います。

(OPINION…意味は「意見・見解」など。『THE YMCA』では毎月、関係ある団体・個人からの意見や提案を掲載します。)

日本YMCA同盟 新総主事紹介

第16代日本YMCA同盟総主事 たくち つとむ 田口 努



【ごあいさつ】 176年前、イギリスのロンドンで産業革命を機に誕生したYMCAは、経済や産業の急成長の中で生きづらさを抱えた青年たちが立ち上がり、青年たち自身の人間性の回復と平和の構築を願い、人びとが相互に連帯する市民社会の創造を目指してきました。現代社会にあっても、急激な変化は続いています。私たち日本のYMCAは、未来の子どもたちやユース、そしてあらゆる世代が豊かに暮らせる持続可能な地球環境・社会、人間性の回復、平和の構築を目指し、多様性を認めながら、共に支え合い分かち合う、ポジティブネットのある市民社会の創造への働きを強めたいと思います。

【プロフィール】

- 1956年 福島県いわき市生まれ
- 1975年 仙台YMCAで野外活動キャンプリーダー、ミンダナオ地震第1回フィリピンワークキャンプ、宮城沖地震被災児童のためのキャンプ、障害児の施設でのワークキャンプの運営などに参加
- 1979年 東北福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒業、横浜YMCA入職
- 1998年 社会福祉法人横浜YMCA福祉会常務理事
- 2008年 横浜YMCA総主事および社会福祉法人横浜YMCA福祉会理事長
- 2012年 公益財団法人横浜YMCA常務理事
- 2020年 第16代日本YMCA同盟総主事就任

●全国のYMCAのさまざまな活動はこちらからもご覧いただけます。https://www.ymcajapan.org

裏面へ

今、私たちに試されていること

「全国YMCAユースチャレンジ」は、全国の多様なYMCAユースが、新たな企画作りに挑戦できる仕組みとして始まりました。「これをする自分も楽しいし、誰かのためにもなる」というユースのやる気と善意を育み、その実現の一步をささやかに応援する。これが、ユースチャレンジの使命です。しかし、この使命はYMCA運動の根幹にあるものではないでしょうか。

大阪成蹊大学の成瀬尚志先生によれば、社会的に広がる運動の秘訣は、「楽しいアクション×社会課題」だそうです。魅力的で楽しい「アクション」が先に始まり、そこに「社会課題」の意識が「掛け算」されていく。そのアクションに多くの人が関わりたいと思うから、運動が広がり、継続する。しかし、社会課題の解決やアクションの成果に力点を置き過ぎてしまうと、参加者のやる気がそがれ、楽しく魅力的な「アクション」が持つ創造性の芽は、摘み取られてしまいます。

これは、YMCA運動にも同じことが言えると思います。ユースを成果主義の観点から動かし、評価することは、YMCA運動をクリエイティブなものにする手掛かりにはなりません。ユースがアクションしやすいYMCAの文化、さらに、そのアクションに社会課題を掛け算する心意気を励ます文化に手掛かりはあるのです。「全国YMCAユースチャレンジ」というプロジェクトは、YMCA運動を支え、励ます文化を再活性化化する試みと言えます。

応援する私たちが、たとえ成果主義の誘惑に駆られても、ユースのアクションとその心意気から学ぼうとする意欲を持つこと。この姿勢なしには、世代を超えて、互いに尊重し合う関係性は生まれません。ユースチャレンジは、応募するユースだけでなく、現代のYMCA運動に関わる私たち全員のチャレンジでもあるのです。

日本YMCA同盟ユース委員 仲井間 健太

「キャンプ場の飲料水の確保にチャレンジ」

—全国YMCAユースチャレンジ2019採用企画より—

北海道YMCAチミケップキャンプ場では飲料水を約26km離れた場所から運び、生活用水はキャンプ場内の井戸を使用します。そのため、水を無駄にしない、環境に配慮したキャンプを実践しています。



キャンプ場ディレクターから話を聞くリーダーたち

「キャンプ場を流れる川の水を飲み水に変えることができるか？」そんな思いがきっかけとなり、新たなチャレンジが始まりました。キャンプ場では実際に、自作のろ過装置を使用して飲料水の確保に挑戦しました。ろ過した水は見た目には透明になりましたが臭いがあり、飲料水の確保の難しさを感じました。

その後、キャンプ場の井戸水が枯渇し、専門業者による対応が必要となり、チャレンジの継続が難しくなっていました。そこで、実践で学んだ「飲料水の確保の難しさ」を子どもたちに伝えたいと思い、環境について水を題材に考えるプログラムを企画・実施しました。その結果、子どもたちは水のろ過と蒸留を体験しながら、当たり前にある水の大切さについて学ぶことができました。

当初の目的は果たせませんでした。子どもたちと環境問題について考えることができたことは素晴らしい経験になりました。今回の体験は、SDGsへの取り組みにもなり、これからもSDGsに目を向けた活動を子どもたちと続けていきたいです。

北海道YMCA 高橋 芽久



子どもプログラムで蒸留にチャレンジ

全国YMCAユースチャレンジ2020

～思いをカタチに変えるあなたの企画、応援します!～

全国YMCAユースチャレンジとは、ユースの企画に対して助成金を通じて支援する事業です。また企画実施のプロセスでも必要に応じて、さまざまなサポートを提供します。



What's
Your
YMCA
Vision?

- 【応募期間】 3月23日（月）～4月20日（月）※採否通知：5月8日（金）
- 【対象】 YMCAに所属する18～35歳のユース世代（ボランティア、学生、スタッフ、専門学校生、日本語学校生、学Yメンバーなど）
- 【助成金額】 1件当たり上限10万円
- 【応募方法】 以下のURLから応募書類をダウンロードの上、応募してください。
<https://www.ymcajapan.org/society/empowerment/>
- 【問い合わせ・申し込み】 日本YMCA同盟ポジティブネット創造部

Positive Net NEWS

ポジティブネット…互いを認め合い、高め合うことのできる、人の善意や前向きな気持ちによってつながるネットワーク

日本で介護福祉士として活躍 外国人介護福祉士養成プロジェクト

日本社会の高齢化が進み、2025年には介護人材が34万人不足と言われていています。そんな中、2017年に外国籍の方が介護福祉士の資格を取得することで日本での就労ができるようになりました（在留資格介護）。

和歌山YMCA国際福祉専門学校は、介護福祉士科と日本語科を併せ持つ数少ない養成校です。そこで、県内の介護施設と協働で外国人介護福祉士養成プロジェクトを立ち上げました。介護施設から奨学金が支給され、日本語科で日本語を学んだ後、2年間介護福祉士科で介護の勉強をします。過去2年に7人が卒業し、この3月に16人の留学生（ベトナム人14人、中国人2人）が介護福祉士科を卒業します。



和歌山市長から表彰を受ける庄 涛さん(右)

中国人留学生の庄 涛（ジョアン タオ）さんは、2月に「和歌山市専修学校各種学校卒業優秀生」として表彰されました。授賞式では、受賞者を代表して「最初は慣れない日本での生活、言葉の壁にぶつかりホームシックになることもありましたが、施設の方々や先生方から外国人としてではなく個人として尊重し、温かく見守っていただいたことによって成長することができました。4月からは介護施設で働き、社会に貢献し、異文化交流の懸け橋となるよう感謝の心を忘れずに精進します」と、流暢な日本語で謝辞を述べました。

今後も、外国人介護福祉士養成プロジェクトを進め、日本だけではなく海外の介護人材養成にも貢献していきます。

和歌山YMCA 加志 勉